

# SDGsを教育で扱うことの目的って？

2019年6月12日

木村 大輔

一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)

グローバル教育プロデューサー

ダイバーシティ・ファシリテーター

調査・研究統括



# UNESCO Education 2030

SDGsの達成に向け、2015年韓国・仁川で関係閣僚によって採択（仁川宣言）

新たな教育に向けたビジョン「2030年に向けた教育：包括的かつ公平な質の高い教育及び万人のための生涯学習に向けて（Education 2030 Framework for Action）」が策定、各国で取り組むべき行動枠組みが策定

<前文>

**5. “我々のビジョンは、教育を通じて生活を変えることであり、教育が、発達のための主な原動力であり、他のSDGs案を達成することにおいて、重要な役割であることを認識している。我々は、危機感を持って、全体論的で野心的なたった一つの、新たな教育アジェンダを公約し、誰も置き去りにしないことを保証する。”**

# UNESCO Education 2030

<前文続き>

5. “この新たなビジョンは、提案されたSDG4「包括的かつ公平な質の高い教育の保証と、万人のための生涯学習の機会の促進」とそれに対応する目標に完全に取り入れられている。それは変革と普遍であり、EFAアジェンダ及び教育関連の**ミレニアム開発目標の‘未完の案件’**に取り組むものであり、世界的及び国内的な教育の課題に取り組むものである。

～中略～

私たちは、**教育は公共財であり、基本的人権であり、その他の権利の実現を保証するための基礎**であることを再確認する。それは、平和、寛容さ、人間の充足感、持続的発展に不可欠である。我々は、**教育が完全雇用及び貧困の根絶への重要な鍵となることを認識**している。我々は生涯学習のアプローチにおいて、アクセス、公平性及び包括性、教育の質、学習成果の向上に努めていく。”

## SDG Target 4.7

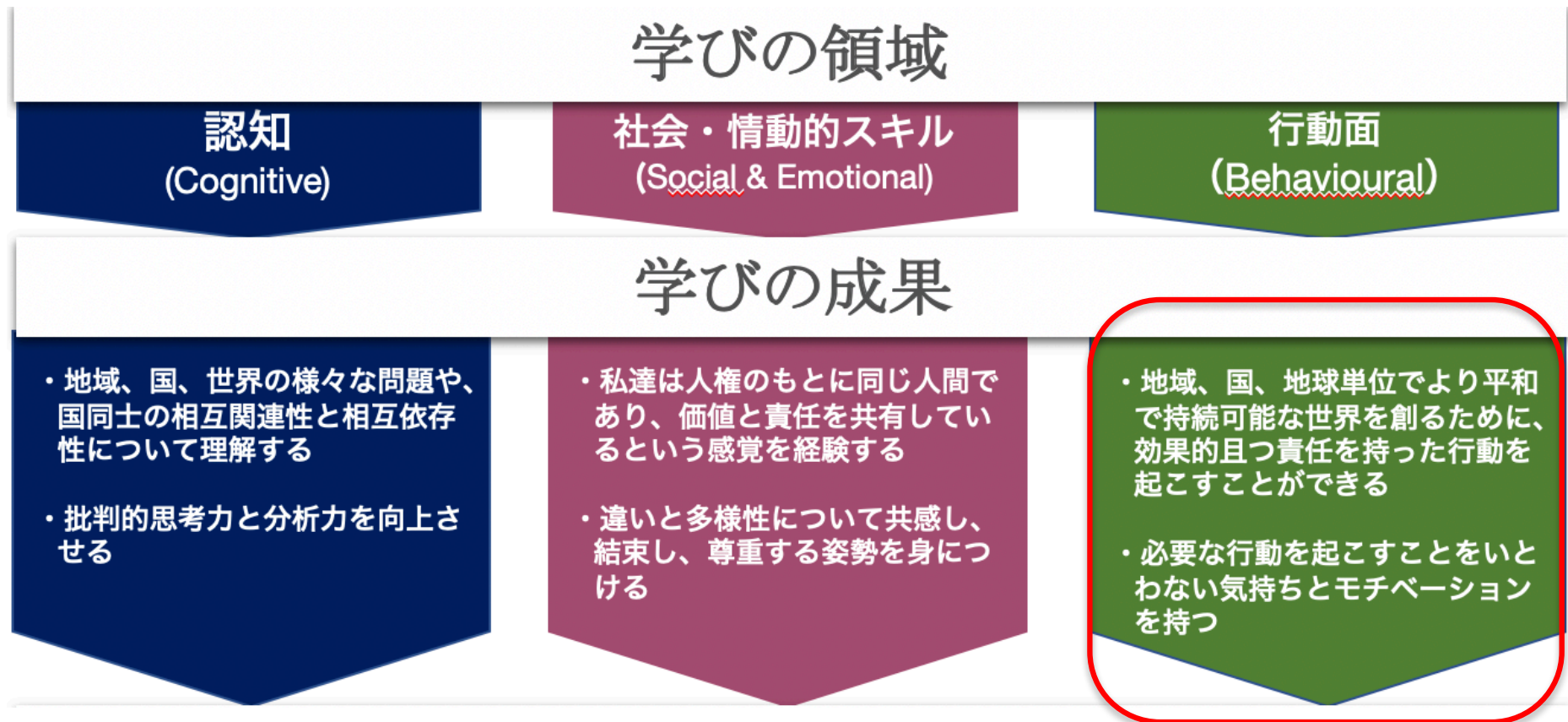
“2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、**すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする。**”



⇒ Transformative Education  
= 「変容」をもたらすための教育の重要性

教育を通して、人々の意識・行動を変容し、  
SDGsの達成に寄与するものである（ヒトごと⇒自分ごと）  
SDG 4.7はその鍵となる教育

# SDG 4.7教育が目指すもの



変容 = 行動を起こすことがSDGs 4.7では認められている

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# OECD : Education 2030



- 個人の、コミュニティの、社会、そして地球全体の**幸福** (wellbeing) を確保するために、学習者一人一人が潜在能力や共通の未来を達成し、**全人的な成長を遂げるためのビジョン**
- 仕事や富といった物質的な幸福だけではなく、健康、社会参画、社会との関わり、生活の質、教育、安全、満足度、環境、といった**個人の幸福が相互貢献しあう社会をイメージ**

## 目指す教育像

- 広い目標に向けた教育 (well-being 2030) → 「シチズンシップ」
- 公益(common goods)のための教育
- エージェンシー (主体性) のための教育 → コ・エージェンシー (家族、生徒、教師、コミュニティと共にある)
- 全人格のための教育
- 生涯をかけて学ぶ情熱のための教育

- 欠如モデルではなく、グロースマインドセットモデルとともにある教育
- 「より学ぶ」ことより「**深い学び**」を通じた教育
- 講義主体から**ガイド主体**の授業
- 生徒の「成功」を再考する～生徒の成果から、学習過程へ



## 予測不可能な時代に向けて

変容を促すコンピテンシー

- ・ 倫理的責任を持つ
- ・ 緊張とジレンマの仲裁
- ・ 新たな価値を生み出す

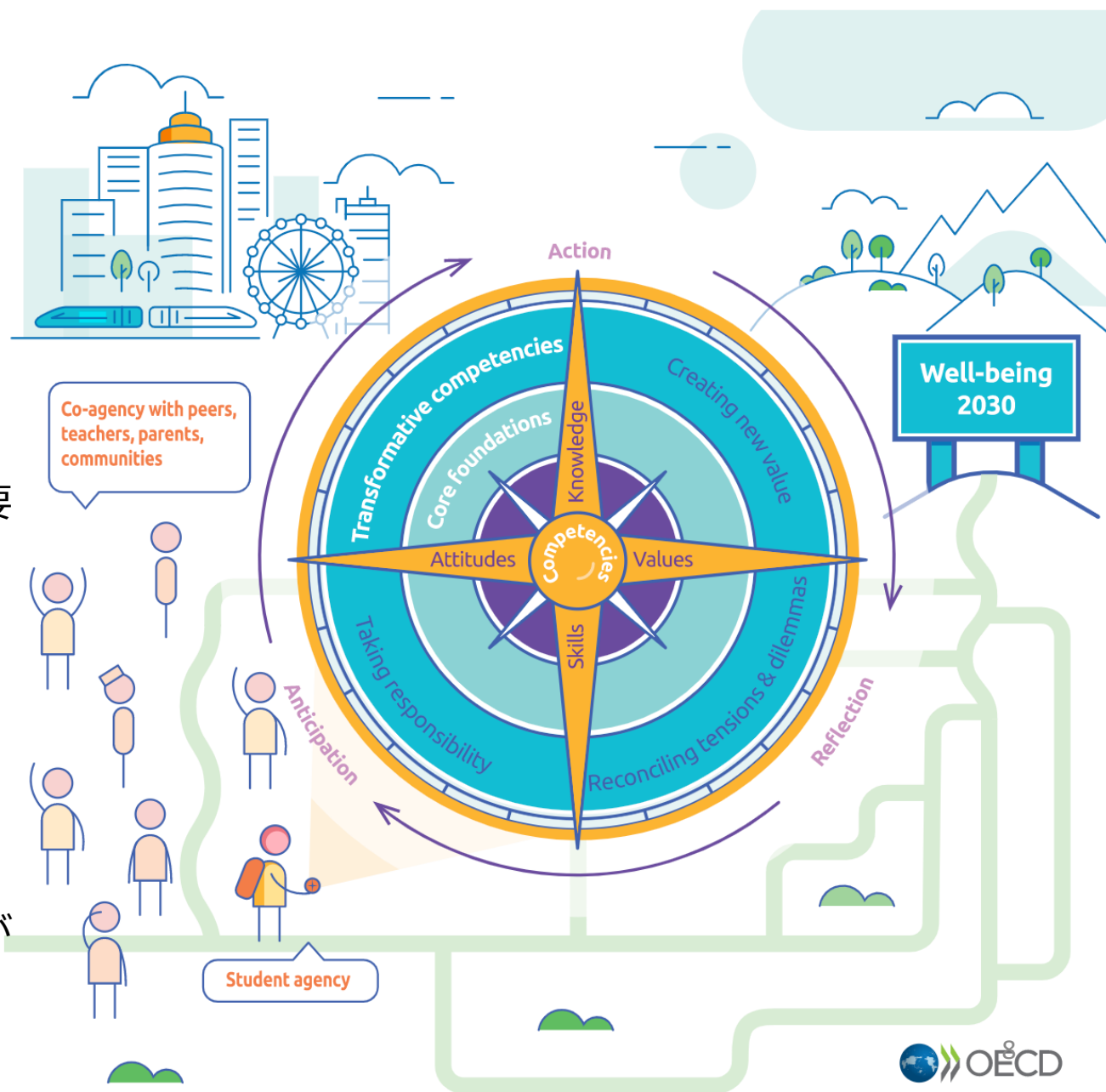
3つの核となる資質が必要

そのために社会、家族、学校、  
教員、自分、全員の主体性が必要

個人としては、

- ・ 世界地図（世界を見渡す視野）
- ・ コンパス（自分の価値観）
- ・ 道具（スキル、知識、態度）

を持って自ら意思決定することが  
求められるでしょう。





# OECD Learning Compass



2030年の社会に必要な、社会変革をもたらす  
コンピテンシーを探求

コンピテンシー	
専門分野	知識
学際的 知識、認知	
プロセス	
認知・メタ認知	スキル
社会・情動	
身体的、実用的	
個人的	態度 ・価値観
地域	
社会	
グローバル	

変容を促すコンピテンシー

• 新しい価値の創造

• 倫理的責任

• 緊張・ジレンマを扱う

どうやって？

予測

行動

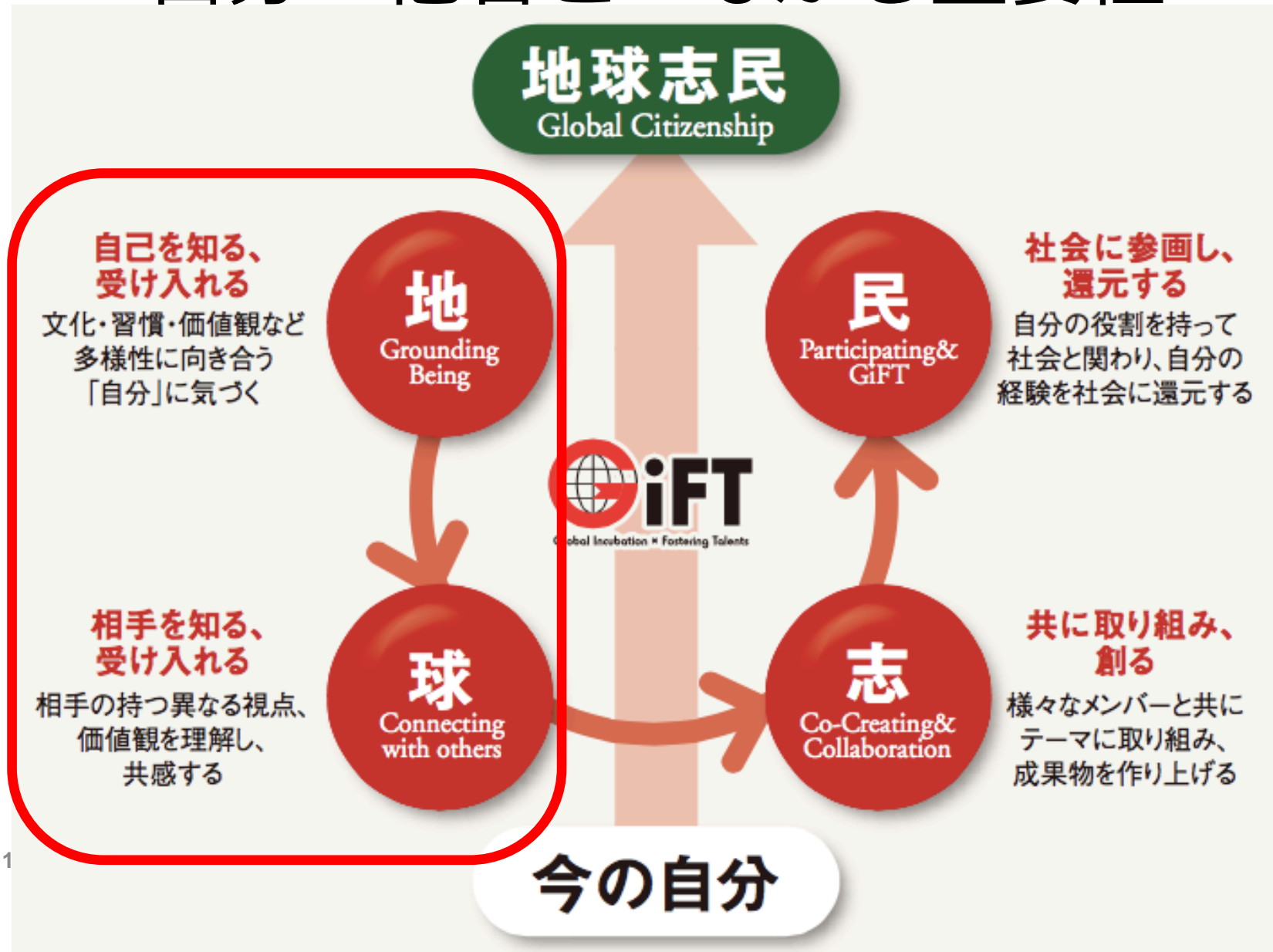
振り返り

のサイクル

# ユネスコERI-NETが示す横断型コンピテンシー

ドメイン	キースキル、コンピテンシー、態度	領域
1. 批判的、創造的思考	クリエイティビティ、起業家精神、処理能力、適用力、反射的思考、論理的意思決定	知識・思考力
2. メディア・情報リテラシー	ICTを使って情報を得、分析するスキル、情報を批判的に評価する力、ICTの倫理的使用	
3. 対人スキル	コミュニケーションスキル、まとめていく力、チームワーク、協力、社会性、同僚性、共感、思いやり	態度 社会情動 価値観
4. 内的スキル	自制心、自ら学ぶ意欲、柔軟性、適応力、自己認識、やり抜く力、モチベーション、思いやり、誠実さ、自尊心	
5. グローバル・シチズンシップ	認識、寛容さ、開放性、責任、多様性の尊重、倫理的 理解力、異文化理解、民主的参画、紛争解決、環境への尊重、ナショナル・アイデンティティ、所属意識	
6. その他	その他、各国で求められているコンピテンシー	

# GiFT : 地球市民の育成 (変容) のプロセス 自分・他者とつながる重要性

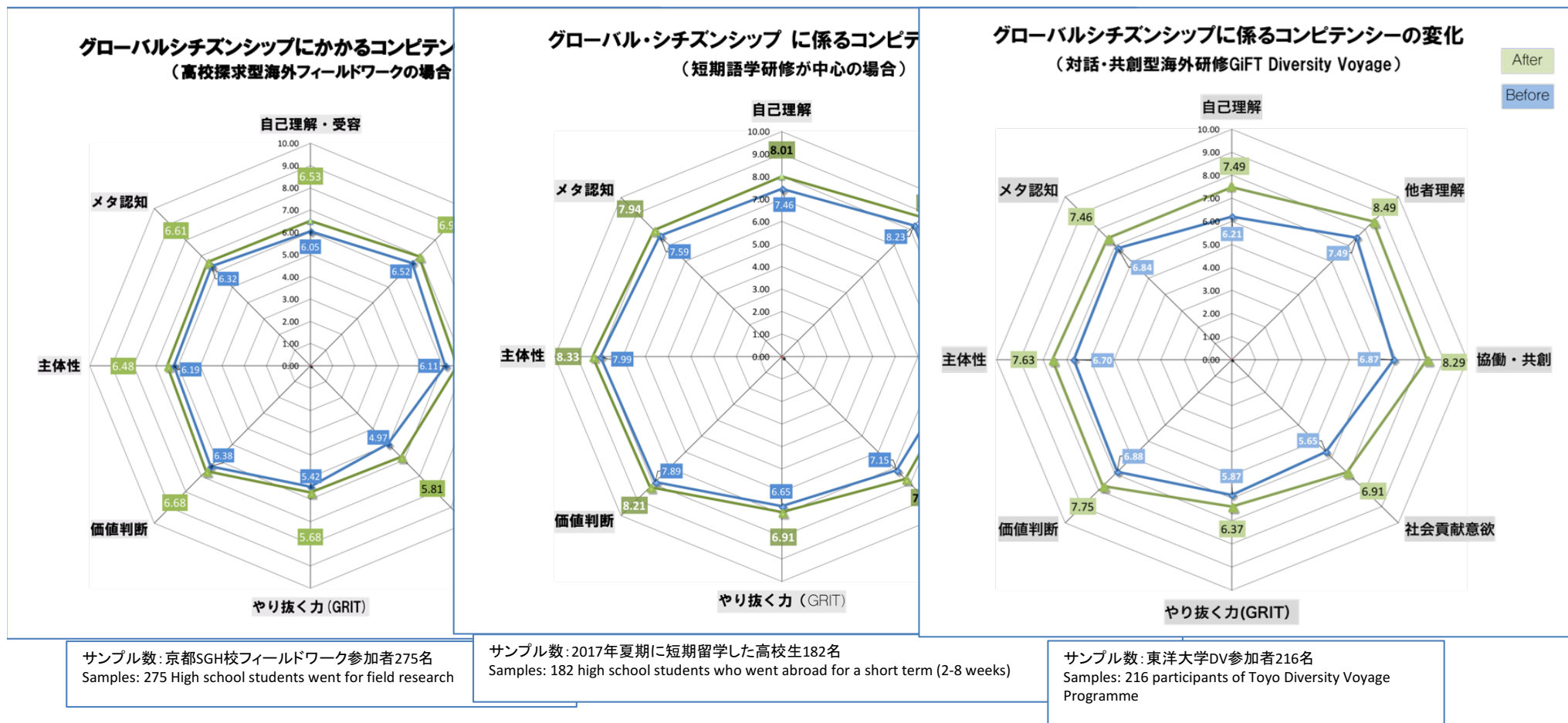


# 目的に応じて伸びるコンピテンシーが異なる 社会情動・価値観の領域が内容によってどのように変化するか

探求学習  
＋海外フィールドワークの例

短期語学研修が  
中心の場合

地球市民の育成、SDGs  
の現場を扱う場合



“変容”のために、SDGsをどうやって扱っていくか？

何が必要か？

どのように実施するか？

どんな工夫ができるか？

コ・エージェンシー  
(主体性)

多様性の尊重

所属意識

緊張・ジレンマを調整する

**自己管理・抑制**

責任ある行動

**共創**

グロース・マインドセット

寛容

**GRIT (やり抜く力)**

## グローバルシチズンシップ教育の教授法などの手引き

- GCEDのコンセプトを各年次の学習目標や現地での事情に合わせた形で提示

## GCEDの様々なアプローチの紹介

- 学校全体
- 教科横断型
- ある教科感同士の教科統合型
- 各教科別
- 課外活動、ノンフォーマル・インフォーマル教育

